

団体名 南風原町立津嘉山幼稚園	連絡先 TEL : 098-889-4559 Eメール : manami-z@town.haebaru.lg.jp
-------------------------------	---

1 実践事項 (2)

タイトル：「チームつかざんの取組」

2 実践内容

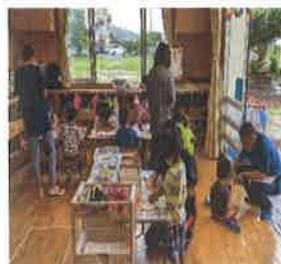
(1) 個に応じた保育

園内研修や週案会議を通して、幼児の実態把握や一人一人の育ちの共通理解を図っている。また日々の保育を写真やビデオに撮り、ビデオカンファレンスを通して幼児理解に努めている。また定期的な園内支援委員会を通して、個別的支援・配慮の必要な幼児への援助及び就学に向けての支援体制を整えるなど、幼児理解に基づいた保育実践を行っている。



(2) 公開保育・保育研究会の実施

担任は一人年2回の園内公開保育を実施している。幼児の実態を踏まえながら、どのような環境構成や援助の工夫が行われているのかを視点に参観した後、参観シートを全職員で共有している。また園内公開保育の中で2回の保育研究会を実施し、保育者の反省や参観者の気付きから、よりよい援助の方法について探るなど保育の質の向上に努めている。



(3) 思いや考えを伝えたい環境づくりの実践

今年度の重点目標「思いや考えを伝え合う子」の達成に向けて、幼児が思いや考えを伝えたい遊びが充実する環境構成に取り組んでいる。環境を構成する際には全職員で幼児の実態を捉えた後、3つのグループに分かれて、自然遊びや運動遊び、表現遊び、製作遊び、伝承遊びなど、場所や時期に合わせた環境構成・再構成ができたことで思いや考えを伝え合いながら遊ぶ姿が見られた。



また、それぞれの環境での援助の方法に一貫性を持つために、園内の環境図に各グループで話し合った援助方法を書き込むなどの見直しを行い、全職員が閲覧できる場所に掲示した。環境図に遊びの展開や教師の気付き等をその都度書き足していくことで環境の再構成にもつなげている。



(4) 学級経営における共通理解と連携体制

月に1度の担任・副担任会議では、学級経営の方針や学級活動の取組について担任と副担任で話し合い、一貫した保育や援助が行えるようにしている。保育中の出来事やエピソードを互いに共有することで、一人一人の実態や育ちを確認し、具体的な援助につなげている。



また担任・副担任・支援員の3者でクラス会議を適宜設け、担任が作成した個別の支援計画を基にした話し合いを行うことで支援を要する子への共通した援助につなげている。

毎週月曜日には特別支援コーディネーターと支援員で支援会議を行い支援を要する子の先週の姿や出来事を共有している。どのような関わりや援助が必要なのかを話し合うことで、どの支援員が関わっても同じ援助ができるように努めている。



3 成果

- ・全職員で幼児理解を深める取組を行ったことで、様々な視点から幼児の姿を捉えることができ、個々の育ちや期に応じた援助や環境構成を行うことができた。
- ・コロナ禍の中で園外研修への参加はほとんどできなかったが、園内の公開保育や保育研究会を通じた保育の方法や援助について意見交換を行うことで、保育の新たな手立てを得たり自分の保育を改めて見直したりすることができ、保育の質の向上につながった。
- ・今年度は島尻教育研究所・沖縄女子短期大学との協働研究の機会を得て、沖縄女子短期大学の名渡山よし乃先生より保育や指導案等に指導助言を頂いた。また公開保育・保育研究会を通して他園の先生方からもアドバイス等を受け、職員の学び、また保育の質の向上につながった。
- ・環境をグループに分かれて整えることで、全職員で意図を持った保育、援助を行うことができた。また環境構成を行う前の幼児がどのように遊びに取り組んでいるかをワークショップ等で共通理解した後に構成を行ったことにより、幼児の育ちや学びの姿を捉えやすくなり、その後の遊びの展開や環境の再構成など見直しをもって保育することができた。
- ・クラス会議や環境グループ会議など共通理解をする機会を設けたことで、職員が連携して保育に取り組む意識がより高まり、日々の情報共有や保育の手立てなどの意見交換がより活発に行われるようになった。

4 課題

- ・職員の保育経験年数に差があるため、引き続き講師を招聘しての理論研究や園内での実践研究等を通して理論研究を深め、理論に基づいた実践を全職員で行えるようにする。
- ・日々の保育や行事などの中でそれぞれの会議の時間の確保が難しい時期もある。行事の精選や職員の勤務体制等を見直しながら、全職員で共通理解を図る時間の確保に努める。